

居場所

明け方の気温は17度でした。本日は昨日に続き、愛知県障害者スポーツ大会(陸上競技)でした。豊田市運動公園陸上競技場に出かけました。本大会は、スポーツ保健医療学科の学外実習でもあり、多くの中部大生が活躍しました。日中の気温は31度で、覚悟はしていたものの、とても暑かったです。

今回は居場所を再考したいと思います。コモンズセンターは、“使い方、自由自在。みんなの創生空間”であり、皆さんの居場所です。私は“居間”のような空間だと表現しています。コモンズセンターにはコモンズサポーターが常駐し、運営をしています。さらに、コモンズサポーターは全学生が参加可能なイベントを企画し、開催してくれています。またコモンズコンシェルジュの教員が皆さんの“したい”に相談に乗り、応援してくれます。コモンズセンター事務室には3人の職員がコモンズセンターの運営に関する事務業務とコモンズサポーターのインターンシップを支えています。私はセンター長として、全ての学生の皆さんと様々なシーンで向き合っています。多くの出会いができる場でもあります。これまでに経験したことのないような出会いをコモンズセンターで欲しいと思います。



利用者の様子。いつも利用している学生も何人か。

私の話で恐縮ですが、大学2年生の頃を思い出しました。自分で言うのも恥ずかしいですが、とても模範となる学生ではありませんでした。むしろご想像通り、斜に構えた厄介な部類の学生だったと思います。単位も落とし、“留年”の二文字がテラつきはじめていました。そんな中、ある教授が居場所を提供してくれたのです。その教授は、「お前は家では絶対に勉強できない(しない)はず」と、研究室を開放してくれ、私は空いた時間に研究室に出入りすることになりました。自分のことなので断言できますが、あの時、この教授に声をかけてもらわず、誰にも頼らなければ、挫折していたと思います。研究室に所属する大学院の先輩たちにもかわいがって頂き、時には厳しいご指導も頂きましたが、今思えば、とても私にとって全ての面でありがたい場所でした。研究のお手伝い(はじめた頃は真実事)からはじめ、その中で勉強をしました。中でも、良かったと思える事が、教授をはじめとする先生方や先輩が勉強の方法を教えてくれた事です。一応、受験勉強もしていましたから、ある程度わかっていたつもりですが、自分の勉強が甘い事がわかりました。勉強には色々なやり方があり、質や効率が大切ですが、ある程度の量を行わなければいけないとわかりました。必要な量を勉強せずに、効率だけ追い求め、質の高い勉強だけをして結果が出ないと言う事が理解できました。そもそも、お恥ずかしい話ですが、大学に入学し、自由を得た私は、ほとんど勉強をしていません。これまでサボっていた分を取り戻すための勉強量が必要だったことは言うまでもありません。居場所を見つけ(提供してもらい)、努力した結果、2年生の終わり頃、解剖学や生理学など、大学ではじめて学ぶ科目が理解できていることに気がつきました。この時、「やらねば」と言う気持ちが高ぶっていたことを忘れることはできません。ごく普通のことなのですが、“嬉しい”と感じたことを覚えています。

私の学生時代(四半世紀も前)から、ドロップアウトしてしまった大学生が再チャレンジする事が難しいのは事実です。私もドロップアウトまでは行きませんが、そのままだったら、ドロップアウトしていたかもしれません。そう思うと、20歳の時に出会い、居場所くれた教授には感謝しています。

「やらねば」と思うのは、いつだって遅くはありません。「やらねば」と言う気持ちが強くなれば、方法を間違わなければ誰でも伸びます。居場所は人それぞれです。そんな居場所の一つに、コモンズセンターがなればと願い、さらなる空間づくりを目指します。

先にも書きましたが、私は決して模範となる大学生では無く、語れる大学生生活もありません。しかし、人に恵まれ、運に恵まれたのだと思います。前出の教授だけではありません。本当に多くの方々に出会い、自分を変えてくれる人との巡り合わせがあったのだと思います。私が人にしてもらったこと、今度はそれを他の誰かに返してあげる事がお世話になった方々への恩返しだと思い、学生と向き合っています。個別に面談も可能です。3階カウンターで「センター長と面談希望」と伝えてください。予約ができます。

日中と夜の温度差が激しい季節です。体調管理に気をつけて、有意義な大学生活を送ってください。